

下田市「散歩したくなる商店街のデザインの提案」

静岡文化芸術大学 大学院 デザイン研究科 礒村克郎研究室
 静岡文化芸術大学 大学院 デザイン研究科 寒竹伸一研究室
 指導教員： 礒村克郎、寒竹伸一
 参加学生： 花田裕実、植田満里奈、小野夏香、小山弥生、
 佐藤里菜、原空也、安井健人



1. 要約

下田市は人口約2万人（平成30年4月現在）の伊豆半島南部東側に位置する都市である。1854年、日米和親条約の締結の際、箱館とともに開港され、ペリー提督艦隊が入港したことで知られている。本研究では本学デザイン研究科の2つの研究室が下田市中心市街地活性化につながるデザイン提案を行う。

2. 研究の目的

現在、下田市中心市街地では人口減少や後継者不足により空き店舗が増加し、商店街を行き交う歩行者が減少することで町の活気が失われている。そこで市街地振興のために下田市役所と下田市商店会連盟と本学デザイン研究室が連携し市民や観光客が散策したくなる商店街を共に検討することで地域活性化に寄与することを目的とする。

3. 研究の内容

下田市基礎調査及び商店街の実態調査資料を作成する。調査をもとに商店街活性化のためのデザイン構想案を作成する。下田市での関係者ミーティングで、学生からの調査・構想案に対してディスカッションを行い、地元住民の意向・課題を抽出し、最終的な商店街活性化の提案につなげていく。

■活動内容



4. 研究の成果

(1)当初の計画

- ①ゼミ学生による下田市中心市街地の活性化に関する資料を収集し（歴史、特徴、他地域参考事例との比較など）、商店街の現地調査（体験、記録、ヒアリングなど）を行う。
- ②下田市中心市街地に対する基本構想案の作成 / 地元グループとの連携活動を行う。

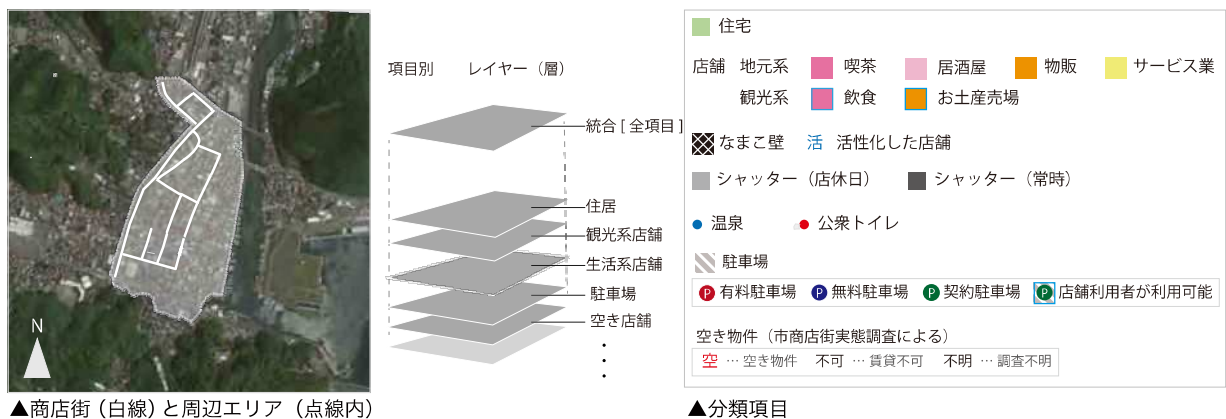
(2)実際の内容

研究はほぼ当初の計画通りに①資料収集、現地調査（体験、記録、ヒアリングなど）/②下田市中心市街地に対する基本構想案の作成を行った。計画と異なる点として、地元グループとの連携活動にはもう少し具体化が必要であるため、今回は構想案作成までの活動にとどめ、代わりに構想案作成の前段階に、たたきとしての仮提案の作成とそれに対する住民との意見交換の場を設けた。これにより提案に必要となる住民の意見や提案の問題点を引き出すことができた。

(3)実績・成果と課題

①商店街業態調査と視覚化

商店街における用途特性を項目ごと（住宅 / 商業 / 駐車場など...）に分類し、地図上にマッピングした。さらに項目ごとに層（レイヤー）を分けてデータを作成することで、商店街エリアにおける項目別の分布状況がわかるようになった。調査を視覚化したことで提案作成のための情報源となった他、住民への調査結果の報告の場において、町の状況を一目で共有できる利点があった。住民からは自身の暮らす地域の状況を再認識できたとの意見をいただいた。



▲商店街 (白線) と周辺エリア (点線内)

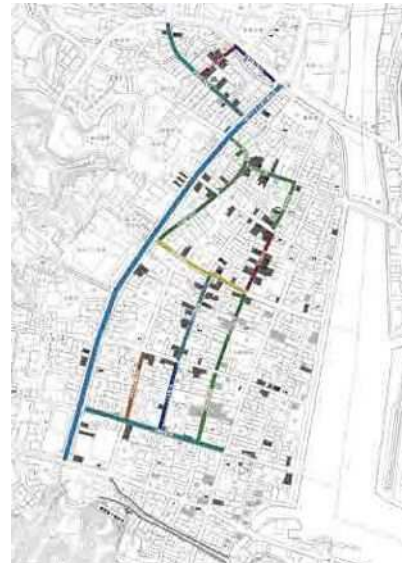
▼統合 [全項目]



▼住宅分布



▼空き店舗・シャッター分布



住宅は川沿いのある西側に多く分布している。閉まった空き店舗やシャッターの閉まった店舗は商店街沿いに分布し、エリア内中央に多く見られる。